



# 医療法人實信会 川内まきのせ 泌尿器・腎クリニック 様

〒895-0072

<ベット数：40床>

鹿児島県薩摩川内市中郷4-7

TEL. 0996-24-1177/FAX. 0996-24-1178



## 導入されたきっかけは？

透析施設では感染対策と業務の効率化の観点から医療材料のディスプレイ化が進んでいます。特に人工腎臓や血液回路などの感染性廃棄物は法律に基づいて適切に処理する必要がありますが、一般廃棄物と比較して処理費用が高い傾向にあります。当院では感染性廃棄物用袋の購入時と廃棄時に1袋ごとに費用が発生しています。そのため感染性廃棄物用袋の消費数削減が廃棄コストの軽減に寄与すると考え、ダイアライザーシーラーを導入しました。また透析中に避難が必要な災害が発生した場合、透析室スタッフは患者を安全かつ迅速にベッド上から解放する必要があります。当院では三方活栓用コネクタキャップを用いた離脱方法を標準の手技としていますが、シーラーの導入により離脱時間短縮および感染管理の上で安全な離脱への有用性も期待しました。

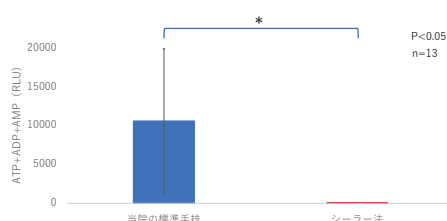


## 導入してどうでしたか？

5日間で検討した際、シーラー導入前感染性廃棄物用袋の消費数が30袋、導入後の消費数が23袋で、7枚の感染性廃棄物用袋の使用を節約することができました。(例えば、感染性廃棄物用袋1枚の購入価格が50円、処分費用1袋が2000円の場合、6日間で約2万円節約することができ、年間では約90万円程節約できる計算になります。)また、シーラーによる離脱は時間の短縮や離脱時の血液汚染の程度が低下しており、災害時など緊迫した場面での迅速かつ感染防止に配慮した離脱の可能性が示されました。

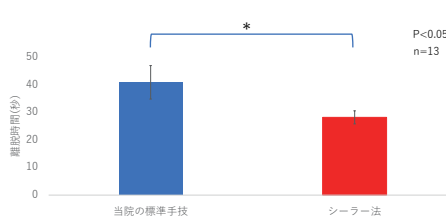
離脱による汚染の程度比較

標準手技と比べシーラー法の汚染の程度は有意に低下  
標準手技では目視による血液曝露の発生が確認



緊急離脱時間の比較

標準手技と比べ、シーラー法での緊急離脱時間は有意に短縮



従来  
1袋=10人分  
(デッドスペースがある)



シーラー使用  
1袋=13人分  
(デッドスペース減少)